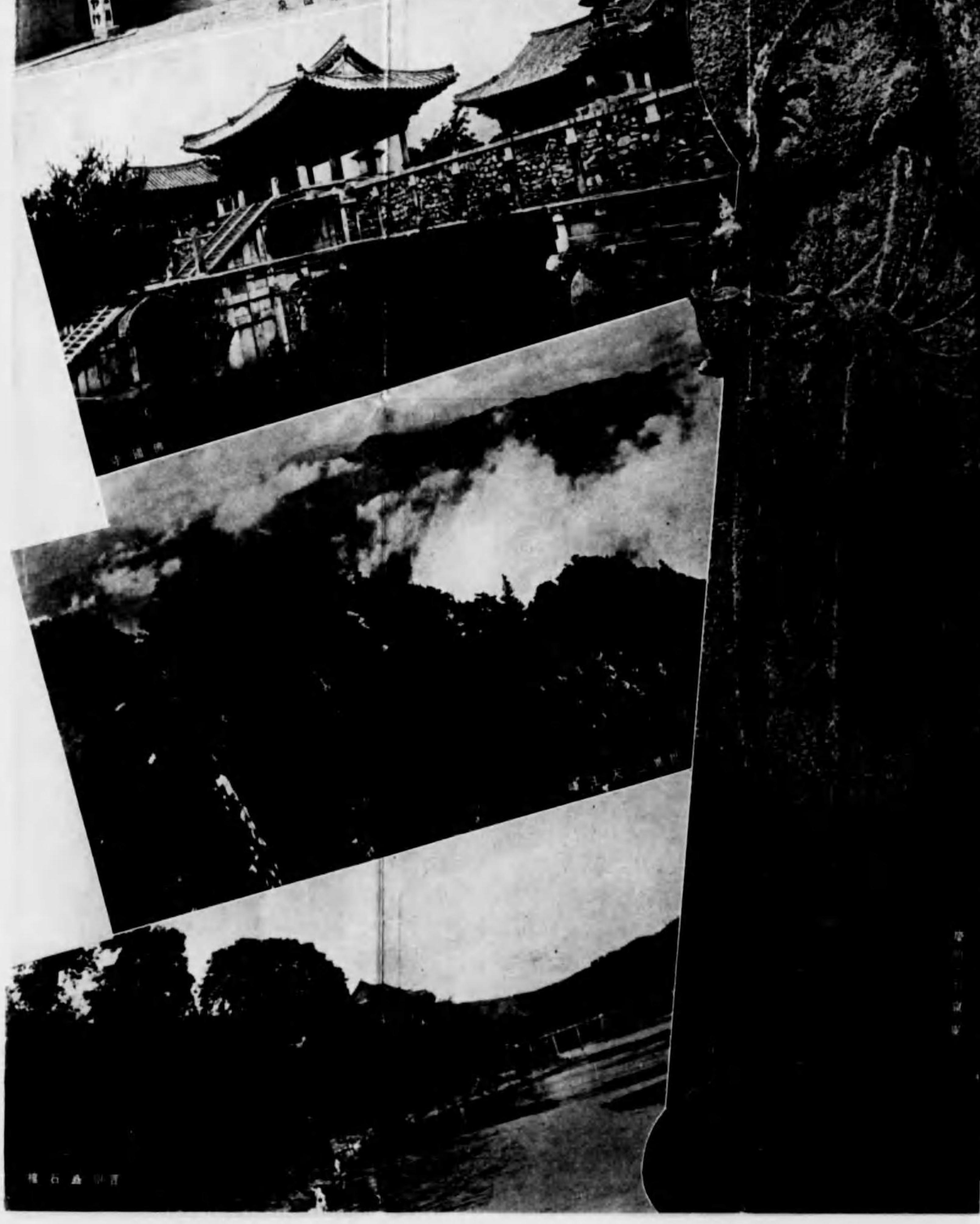
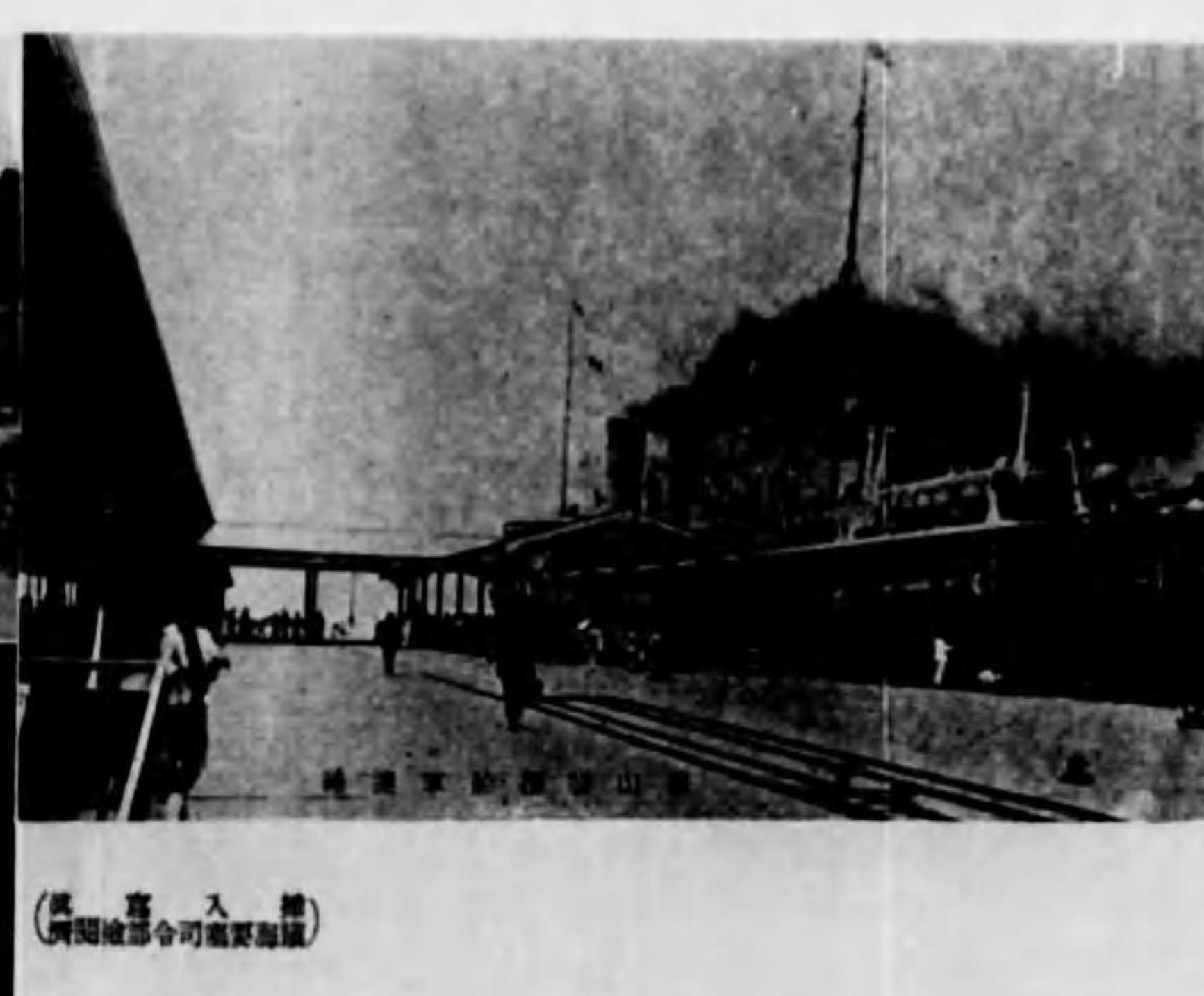


始





0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 14 cm 1 2 3 4 5



要塞及要港地帶撮寫禁止

左の場所は要塞及要港地帶である關係上許可なくして寫真撮影及描寫は出来ない。

釜山附近(海雲臺車両を含む)

馬山・鏡海附近

慶州

新羅の古都慶州は大邱の東方六八秆餘、北迎日灘を距る三六秆餘の地點にある一大盆地であつて地勢は四方山に圍まれ西川・南川・北川等の清らかな流れがゆつたり其間を曲折してゐる。此の平野三四周の山水が即ち昔の新羅王都の地域であつて、曾つては半島統一の都城として全盛を誇り、全衛一千三百坊、民戸十七萬八千九百を擁せり。歴史は傳へて居るから、人口約七八十萬を收めたものと想像される。現在の慶州市街は舊都城の西部巷の一部分に過ぎず、「國破れて山河在り」の古都の寂寥さを一入深くせしめるが、足一度古蹟を訪ねんか規模の壯大、風光の溫雅、流石五十六王約一千年間新羅文化の心臓たりし事を頗かしめ低徊去るに忍びないものがある。現存新羅文化の事跡中には城址あり、寺院、塔塔あり、佛像陵墓があつて、慶州を中心として二四秆の遠きに迄散在し其の判明せるもののみにても百二十餘個所を算し何れも史蹟研究上貴重なる考證物として珍重せられてゐる。而して坦々たる道路は四方に通じ、山谷の一部を除き主なる古蹟の探勝には自動車を駆る事を得て探勝に何事の不便苦痛をも感じさせない。

慶州を中心として其の附近にあるもの

皇甫里の古墳群 慶州郡より東北二百米色の南入口附近に小山の如き幾多の古墳がある、其の形に圓形・瓢形があるが何れも勾配甚だ急なる大土墳であつて其の最大のものを鳳凰臺と呼び、高さ十八米餘基經四十米餘もある。之等古墳群中、味鄒王陵と傳へるゝ一基を除き、他は無名墳であるが、全部新羅時代の王陵と謂はれて居る。現在博物館に保存されて居る純金製寶冠、金鈴寶玉類等は鳳凰臺附近の發墳より發掘せられたものであつて、斯かる前例より觀ても是等多數古墳には數十萬金を以つてしても購ひ得ない幾多の寶物を埋蔵して居る事は想像に難くない。

博物館慶州分館 城の中央部に在り、石器時代の遺物に始り辰韓、新羅高麗迄では李朝に亘る各時代の石器、陶土器、瓦壇類佛像、金冠梵鐘石棺、府尹練兵服等を陳列し文化の進歩道程を一見にして知り得る様區分陳列せられて居るが就中境内にある奉德寺の大梵鍾は其の由緒に音律、技巧に於て驚嘆に値するものがあつて世界無比の名鍾として考古學上珍重せられて居る。

觀覽料 金五錢
(毎月曜日休館)

芬皇寺石塔 新羅時代に於ける京坊の中心地であつた芬皇寺の境内に在る。第二十七代善徳女王供養の爲に建立せられたものであり既に千三百年の歲月を経て居る。其の昔は九層塔であつたが今三層丈を存して居る、全部黒褐色の長方形安山岩を積み累ねて築造し一見導築の如く見え、頗る莊重であり新羅三寶の一と傳へられて居る、又初層四面の入口に陽刻された金剛力士像は磨損が甚しいけれども四隅の石獅子と共に雄健を顯はれ隋唐式手法の窺知上有力なものである。

鳥龍寺塔 有蓋井の南三百六十步遠路南側の田畠の間に立つて居る、二重塔の形である。塔身は圓柱形で、塔頂は圓錐形である。塔身は圓柱形で、塔頂は圓錐形である。實に二十九年を要したと謂ふ。新羅寺刹中唯一の結構なものであつたと傳へて居るが高麗時代に蒙古軍の爲に焼かれて今は巨大な礎石の列のみを残してゐる。

雁鷀池及臨海殿址 月城の東北鐵道線路に沿ふて水藻に覆はれ寂びれ果てた雁鷀池がある、新羅の英主文武王の時宮苑として朝鮮牛島を像り(又は勾玉を像りたりとも謂ふ)支那の巫山十二峰を摸して造園し西岸に壯麗を極めたる臨海殿を建て専ら海外使賓客の接見又は宴應所に充てたと云ふ。今尚礎石水切石等昔日の儀で豪壯の面影を止め居る、尙明治神宮外苑に築造された池は此の雁鷀池を摸したものであると云ふ。

月城址 (半月城址) 雁鷀池の西南三〇〇米餘にして舊譜として天を蔽ふ樹、槐・櫻等の老林がある慶州金氏即ち新羅第十三代金味鄒王の發祥の地であつて上代始林と呼ばれたが王發祥の古事により後鶴林と呼び馴らはし神聖林とされて居る。

朝鮮の前名鶴林八道は全く此處より出たものである。中央に鶴林の由來を刻せる碑闍がある。

五陵 五陵は一に始陵とも謂ひ渡つた西方の松林中に在つて五基集在し内一基は瓢型墳である。

鈍石亭 五陵より彦陽街道を南に羅井・昌林寺趾を左手丘上に眺めて行く事二秆餘左折すれば南山西麓の溪流の傍にあるのが鈍石亭である。當時離宮の一部であつて大木の下に狹き石渠を甃型に築き溪流を受けて所謂流觴曲水の宴遊をなせしと。規模は左程大きくなが東洋に殘る唯一のものとして珍重がられ又第五十

五代景哀王が妃媛と共に此處に遊び置酒宮舞の中後に百濟の更賛に撃はれ自害を遂げたりと云ふ新羅最後の哀史を語る源多き遺蹟である。

南山城趾 縣の南方三軒にある秃山が南山であつて、其の北邊に延々たる城壁が即ち南山城趾である。此の城は東に明活、西に仙桃の山城と共に羅都の三方に鼎立して守護城であつたと謂ふ。城壁外の南山一帯は當時の佛教靈場の跡で山間峡谷至る所に佛像あり塔があつて寺院の礎石が點在し豪雨每に埋没した古瓦古陶がこれ等を露出し考古趣味の人々を喜ばして居る。

四面石佛 邑の東方小金剛山の西麓にある、高さ四米の岩石の正面に釋迦の立像を兩側に日光月光佛の丸彫を配し岩の側面及背面に各佛像を彫刻してある手法が何れも精妙を極め何れも傑作とされてゐる。

桵栗寺 四面石佛から小金剛山の小徑を攀づれば其の中腹に桵栗寺がある。創基の年は明かでないが新羅第二十一代文王の時重創したとの記録から觀ても相當由緒あるもので新羅時代の佛刹中稀に残るものとして訪ぶものが多い。博物館慶州分館内に安置されて居る銅造藥師如來の立像は此の寺の本尊佛であつて新羅統一時代の作品と云はれてゐる。この寺の本尊佛は此の寺の本尊佛であつて新羅統一時代の作品と云はれてゐる。

鶴岩 小金剛山の南麓にある大きな岩山で傍の碑に依れば此の岩は國都の方位上害があると云ふので鶴を植ゑて之を懸覆した爲に此の名が出でたと傳へられてゐるが他にも多くの口碑傳説を持ち慶州李氏一門は祖先降天の地として神聖視して居る。

西岳を中心として其の附近にあるもの

金度信墓 延州驛から西へ五百米更に畦畔を西北に二軒松花山麓を上る。周圍に十二支神像を彫刻した護石を繞らして比較的完全に保存された墓がある。掛陵と共に當時の代表的墳墓と謂はれ、新羅中興の名臣金度信の墓である。金氏は武烈、文武の二王を輔け百濟高句麗を亡ぼし半島統一の霸業を成した功臣である。

武烈王陵 西岳驛の西北約四百米大邱街道に沿ふて老松と椿の植樹中に在るが即ち半島統一の偉業を完成した新羅中興の英主第二十九代武烈王の陵である。陵墓は周囲約五百米文武王元年の築造で入口右側の龜趺は陵墓に對する碑石の臺で今は碑身を失ひ六龍寶珠を捧ぐる狀を彫刻せる笠が龜趺の上に置かれている。

西岳書院 武烈王陵の東北方にあり、新羅三賢たる金度信・薛聰及崔致遠を合祀し書院として子弟の教養（農機）を行つた處である、尙附近に眞興・眞智・文聖・惠安王の陵及永敬寺址があり此のあたり一帯の山麓は古墳群に覆はれてゐる。

佛國寺を中心として其の附近にあるもの

方型壇 佛國寺驛直前の街路を距てて民家に間まれて居る方型粗石壇で南面して入口があり周圍に十二支神像を彫刻せる護石を廻らして比較的完全に保存された墓がある。掛陵と共に

掛陵 佛國寺驛から蔚山街道を南に三軒左折して更に一軒行くと北寄の松林中に掛陵がある。口碑に新羅三十代文武王の陵と傳へてゐる。北に小山を負ひ後の基を護石を以て圓み武具を着けた十二支神像を陽刻してある。又陵の前面廣場には石獅二對・文武石人石華表各一對あり新羅陵墓として其の形體を保つてゐる代表的のものである、殊に石獸石人の手法が最も勝れ雄渾威嚴の氣張り時代作品中の白眉と謂はれてゐる。

途中蔚山街道の右側に傳説の池影池 がある。

佛國寺 佛國寺驛の北方三軒半吐含山の中腹にある。今より千五百餘年前我道云ふ人によつて開拓せられ後新羅第二十三代法興王の時重創したが鳥有に歸し第三十五代景德王の世國宰金大城が更に重修し多寶釋迦の二塔を建て、石壇を築き奇巧を極めた石階を設け東を青雲、西を七寶蓮華橋と呼び無說殿を中心

に樓堂伽藍五十有餘が列び建ち一大偉觀を呈してゐるが、李朝時代に至り兵火の災害に逢ひ木造建築物の全部を灰燼化し去つた、現存の木造物は其の後建築されたものゝ一部であるが木石混用配置の妙麗さは遺物中の隨一と謂はれ四邊の山水も亦幽雅である。爲殿内に在る銅造の身佛二體は姿勢雄偉面相端麗にして大雄殿裏に在る舍利石塔と共に當代の代表作品と謂はれてゐる。尙拜觀料として五錢を要する。

石窟庵 佛國寺より急坂三軒を登り吐含山の頂上を越えると汪洋たる日本海を望み間もなく石窟庵に達する。

金大城 が佛國寺の重修と共に誕生の力を盡して創建したもので山腹に穴を穿ち中央に丈六の釋迦如來坐像を安置し入口上方に十個の佛龕があり、各々小菩薩が安置されてある。此等の彌陀は何れも非凡の傑作であつて新羅黃金時代の代表的優秀な遺品である。尙拜觀料として五錢を要する。

古蹟遊覽案内

交 通

1. 吐含山方面から 吐含山、慶州、大邱間は三角形を描く一大環状線であるから、内地京城方面何れからするも順路的に慶州探勝が出来る。先づ吐含山方面からは、東萊海雲臺の

2. 湿原や海水浴場等を経て次々に展けて行く南日本海岸の風光に接しつゝ列車は約四時間半で古都慶州に着き古蹟探勝の上再び列車で大邱に出てゐる。

3. 2. 京城方面から 前項の道路を執るのが一番順當である。

運 貨

1. 吐含山、慶州間 百十七軒 二等 三・二八 三等 一・八二

2. 大邱、慶州間 六十九軒 二等 一・九四 三等 一・〇七

3. 3. 運貨

4. 4. 運貨

5. 5. 運貨

6. 6. 運貨

7. 7. 運貨

8. 8. 運貨

9. 9. 運貨

10. 10. 運貨

11. 11. 運貨

12. 12. 運貨

13. 13. 運貨

14. 14. 運貨

15. 15. 運貨

16. 16. 運貨

17. 17. 運貨

18. 18. 運貨

19. 19. 運貨

20. 20. 運貨

21. 21. 運貨

22. 22. 運貨

23. 23. 運貨

24. 24. 運貨

25. 25. 運貨

26. 26. 運貨

27. 27. 運貨

28. 28. 運貨

29. 29. 運貨

30. 30. 運貨

31. 31. 運貨

32. 32. 運貨

33. 33. 運貨

34. 34. 運貨

35. 35. 運貨

36. 36. 運貨

37. 37. 運貨

38. 38. 運貨

39. 39. 運貨

40. 40. 運貨

41. 41. 運貨

観察順序

古蹟は今の慶州邑内を中心として遠きは二十四軒の外にまでも散在して居るが探勝道路も完備し、遊覧自動車の便もあるから比較的容易に短時間で観察する事が出来る。

1. 中部巡り
2. 蔚州驛(八〇〇米)博物館(分館)(二軒)芬臺寺石塔(三〇〇米)皇龍寺(六〇〇米)雁鴨池(五〇〇米)石水庫(四〇〇米)慶星臺(三〇〇米)

3. 3. 中部巡り
4. 蔚州驛(三軒)武烈王陵(三軒)慶州驛蔚州
5. [所要時間] 見物所要時間を含み徒步一時間 自動車三十分

6. 東部巡り
7. [所要時間] 各地見物時間を含む徒步四時間 自動車一時間
8. 蔚州驛(三軒)四面石佛(四〇〇米)栢栗寺(一軒)二十〇〇米
9. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
10. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
11. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
12. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
13. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
14. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
15. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
16. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
17. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
18. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
19. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
20. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
21. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
22. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
23. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
24. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
25. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
26. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
27. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
28. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
29. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
30. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
31. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
32. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
33. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
34. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
35. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
36. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
37. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
38. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
39. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
40. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱
41. 蔚州驛(三軒)石窟庵(三軒)大邱

釜山

山

釜山と鉄道車輌

朝鮮東南端の主要貿易港である釜山は煙波三十浬を隔てゝ豊岐對馬と相対し、朝鮮海峡を越えて百二十浬の彼方下關との間には朝夕二回の關釜連絡船が定期運航し、鮮浦鐵道と連絡して歐亞大陸に通する大支那たる権要の地位を占め、尙北九州商船會社の博多行定期便も毎日一往復運航し、内地との交通は一層至便となつてゐる。

關釜連絡船の横付になる桟橋は僅か數十歩の距離で列車と接続し、旅客待合所・出札所・手荷物取扱所・貨幣交換所・電信取扱所・食堂・ピューロー案内所等の連絡設備は遺憾なく整つてゐる。桟橋から土産品店の並んだ上屋を通り抜けると釜山本郷と鐵道會館（ホテル）で二階は鐵道事務所となつてゐる。

釜山に上陸して第一に印象づけられるのは市街が純然たる内地であるこゝであつて、全く朝鮮の情趣を味へぬ程内地化してゐる。釜山府は草薙・釜山城の市街を包含し灣の北東より西南にかけて展開してゐる。府の背後には太白山脈の餘勢である天馬・義姫・九徳・高遠見の諸峰が屏風の如く圍繞して朔風を防ぐ爲に氣候は溫和で東京地方と殆んど變らない。現在全人口十六萬三千餘、内地人五萬一千餘人、井然たる街衢には官衙・公署・會社等軒を並べ益々殷賑を極めて居る。

釜山港に於ける通商貿易は遠く四百七十餘年前對馬守宗氏修交の誼を結び日韓通商を約したに始つてゐる。當時は別段見るべきものなく單に對馬との交易に過ぎなかつたが、明治九年貿易港として開港以來は海陸諸般の施設漸進的に整備の域に進み、今や貿易額も二億四千萬圓を突破する盛況である。輸出品の主なる物は米・鮮鹽干魚・大豆・海苔・陶器等、輸入品としては葉貢・鹽・小麦粉・生果・綿織絲・肥料・機械類・木材等で、產業の發展に伴ひ益々繁盛を呈すべき状勢にある。尙市内には醸造業を始めこし精米・製鹽・織詰・蒲鉾・水產肥料・造船等の工場が市内に相當發達し、近代的大規模の紡績、耐質陶器製造會社の如きは朝鮮に於ても有数の大工場となつてゐる。

戸 口	戸 数	朝鮮人	内地人	外 人	計
官公署其他	一一、六九九	二四、五〇五	一一、六九九	六三	三七、二六七
慶尙南道廳					人 口
釜山府廳					一〇、二七五
釜山稅關					五三、三三八
高等女學校					二〇一
日本實質陶器會社					一六三、八一四
紡績會社					
航 路					
鐵 路					
電 車					

大阪蒲原線・大阪清津線・大阪洲島線・新義州大阪線・朝鮮上海線・釜山驛淡島線・朝鮮西海岸線・釜山元山線・雄基關門線・釜山博多線・朝鮮長崎大連線・釜山濟州島線・釜山麗水木浦線・釜山統督線・釜山方魚津線・釜山浦項線	八十錢（龍頭山公園ヲ除ク）	市内	貨切料金	一時間以内	三 回	半日（五時間以内）十五回	一日（十時間以内）三十回
電車（市内及東萊温泉間）	一回五錢	府内	釜山驛前を境とし二區に分たれて居る、釜山驛前から東萊温泉迄は五區である。				

旅館（全部茶代廢止）

鳴日旅館（屏前）岡本旅館（屏前）荒井旅館（屏前）松井旅館（埋立新町）花屋旅館（屏前）釜山ホテル（辨天町）松島ホテル（松島）
宿泊料 一泊二食 二間から七間まで 一泊一食 一間五十錢から五間五十錢まで 表食料 一間から二間五十錢まで
食事 釜山鐵道會館（鐵道局直營）食事料 朝食 一間五十錢 麵食 二間 釜山鐵道會館（鐵道局直營）食事料 朝食 一間五十錢 表食料 一間から二間五十錢まで
食事 日本料理 美都巴・うろこ・加茂川（以上南浦町）松の屋（松島） 西洋料理 ミカド（幸町）好樂軒（本町）精美軒（大通町）和洋食各一品料理を調達す
遊覽順序 市内 屏前→大通町→龍頭山→日韓市場→長手通→物産陳列館→屏前 所要時間 徒歩約二時間 自動車約一時間 費用 自動車一臺 二間五十錢 電車（屏市場間）五錢

市内名勝地

龍頭山 市街の中央に聳ゆる一丘陵で、松樹鬱蒼と茂り府の公園地となつて居る。春は緑の樹間に散む櫻花の眺めが佳く、丘の上に祀つてある龍頭山神社は釜山の氏神社として又朝鮮最古の神社として、内鮮人の崇敬厚い御社となつて居る。

境内から一望する三盆地の様な碧灣と絶影・赤崎の翠壁が目曉の間に迫つて晴朗の日には南方遙かに島嶼のやうな對馬が見える。

大正公園

市内から一望する三盆地の様な碧湾と絶影・赤崎の翠壁が目曉の間に迫つて晴朗の日には南方遙かに島嶼のやうな對馬が見える。

昭和公園

釜山鐵驛を距る西南三百米位の處にある。府民遊園の地で國內に津江兵庫の碑がある。

水晶園

釜山鐵驛の西方二杆餘の水晶山腹にある。園内には各種の樹木を植え、築山も設けられて府民散策の地となつてゐる。

松島

釜山市街の南方約一杆岩南半島の一部に灣入せる海岸を俗に松島と呼んでゐる。灣内波静かで白砂相連り潮水淺く夏季海水浴場として至極恰好の地である。

自動車賃

乗合三十錢 貸切一圓

船賃（夏季に限る）片道十錢 往復十五錢

釜山鐵城址 釜山鐵驛を距る北方三百米位の處にある。文祿慶長の役小西行長が船を牛岩洞に繋き本城を陥れ守護都督を生擒にした云ふところ、後行長が之を日本式に改築したものであると傳へられて居る。今猶城砦を遺し當時を追憶するに充分である。

釜山鐵驛 住時は半島東南端の要衝で西南一帯は山嶽の麓に東南は廣闊なる埋立地を間に釜山灣に臨んでゐる。現在釜山府の膨脹は北方に延びて其の一部をなし市内電車も此處から東萊まで延び東海南部線は此の地より分歧東萊邑内・海雲臺を通じ而して蔚山・結び交通上重要な位置にある。驛附近には朝鮮紡績會社・各種醸造場・日榮ゴム・釜山織物等の工場搬出し、また此處の移出牛検疫所を經由し内地に移出せらるゝ活牛は四十萬頭の多さに達してゐる。市街の膨張につれ競近著しく發達してきたので兩地間には東洋一を誇る跳開式渡津橋（釜山大橋）が架せられ、市街電車を通じ交通は至つて便利となつてゐる。

郊外名勝地

東萊海雲臺

釜山から北へ向つてひこ走り湯の花香る東萊海雲臺兩温泉の名は餘りにも有名であるが、これを圍む附近の風光と名勝舊蹟の數々は遊覽と行楽に適し

矣に朝鮮八勝の一に推賞された。

東萊溫泉 新羅時代から既に世に知られてゐる温泉場で今日朝鮮で温泉と云へば先づ東萊に指を屈する。東萊は釜山を距る北約一二杆、附近には海雲臺・梵魚寺・

通度寺等の名所舊蹟もあつて湯治場の無難を感じる様なことはない。交通は非常に便利で釜山驛から汽車で東萊驛に下車し乗合自動車により行く外釜山からは絶えず電車が往來し一時間毎には乗合自動車の便もある。背後に金井山の奇勝を負ひ、前に東萊川を控へた立派な湯町で行樂的に發展し、宏壯な旅館・料亭が構

し、今では釜山で最も繁盛する旅客の必ず旅塵を洗ふ處となつてゐる。泉質は弱酸性泉で無臭透明特に胃腸神經婦人病等に効能がある。

旅館

鳴戸・東萊館・梵井・勝・靜の家

宿泊料 四・五〇 三・五〇 三・〇〇

交通 汽車 釜山東萊間 一日七往復

自動車 釜山驛東萊温泉間 賃金 乗合片道一人 三〇錢 貸切片道 三圓 所要時間 三〇分

毎日午前七時半より午後九時まで一時間毎に釜山東萊の兩地より發する。

電車

釜山驛前より五區 片道二五錢 往復 四〇錢 所要時間 四十五分

旅館 温泉ホテル・海雲閣・松壽閣 宿泊料 一泊 二間から六間迄

梵魚寺 東萊溫泉の北約四杆金井山の中腹、鬱鬱たる綠の中に一大伽藍の覺を列ねてゐるのが蔚山街道から目につく、これが梵魚寺である。新羅の名僧元曉の開基に係る南鮮三大名刹の一で堂宇寺數十、僧侶が二三百人も居るといふ。境内は松樹鬱蒼、幽邃の趣をなしてゐる。寺は南鮮で海印寺と對立する巨刹で其境域の廣大さは驚くばかり巍峨たる靈巖山の向昔の規模を遺して觀るべきものが多く、佛の本宗と謂つて有名な釋迦の舍利塔がある。

自動車賃 勿禁驛から乗合一圓十錢、釜山驛から乗合一圓八十錢、貨切十三圓

大邱

大邱は慶尚北道廳の所在地で、京城以南に於て釜山に亞ぐ大都市である。一島二十二郡の政治及產業の中権地として又商工業の盛んな點に於て西鮮の平壤と相對

峙し市街の殷賑交通機關の整備等大都市として恵しからぬ設備を有してゐる。附近は京釜鐵道の開通以來一層繁盛を來し、地方への道路も良く修築せられて自動車網の輻輳をなし道路の完備せる。全鮮一の稱がある。尙東海中部線は慶州

を經て浦項・蔚山に通じ沿道の農産物・日本海の魚類は豊富に搬入せられ、今日では此地の經濟圈は慶北全部及慶南の東半部、悉く其勢力下にありと云ふも過言でない。又大邱附近は地味豊沃で穀類・蔬菜の產出を以て聞え、内地人の移住者多きにつれ農産界は近來著しき發展を來し各所には果樹・煙草・莞草等を栽培する農園も族出し、殊に苹果に至つては名聲赫々たるもので内地は勿論遠く海外まで輸出好評を博してゐる。市内の朝鮮製絲・大邱製絲・片倉組製絲などの大工場は煙突から盛んに煙を吐いてゐる。

此處の西門、東門の兩市場は有名なもので殊に毎年十二月に開市せられる樂令市は薬材を生要取引物賣し、其取引高七十萬圓殆んど十箇月間を通じて開市せられ

本道内は勿論遠く全鮮各地より參集するものは幾萬に上り開市日には白衣を以て肩摩鼓擊の殷盛を呈する。

大邱市場布日 西門市場 每月陰曆二・七の日 東門市場 每月陰曆四・九の日 樂令大市 每年陰曆十二月(一箇月間)

戸 口 西門 市場 每月陰曆二・七の日 東門市場 每月陰曆四・九の日 樂令大市 每年陰曆十二月(一箇月間)

戸 口 教 內 地 人 朝 鮮 人 其 他

官公衛其他 六、二二四 一五、七三二 一一一 二二、〇六七 人 口 二七、六三八 七七、六八九 四七〇 一〇五、七九七

校・農學校・商業學校・朝鮮銀行支店・朝鮮殖產銀行支店・大邱銀行・東洋拓殖支店・大邱商工會議所・公會堂・朝鮮民報社・大邱日報社

交 通 自動車 一時間 三回 市内 ダタシ一 一人五十錢 市内六錢均一 往復十錢

旅 事 三笠(幸町) 明石(村上町) 清乃家(東本町) 菊萬(田町) 魚竹(東條町) 水戸家(村上町) いけす(東本町)

旅館 料理 公會堂食堂・樂天食堂・白鶴食堂・鶴軒食堂(驛二階) 赤玉食堂

旅館 (茶代廻止) 喜慶旅館(驛より三〇〇米) 花屋旅館(驛より三〇〇米) 三福旅館(驛より半升) ツタ屋旅館

(駅より三〇〇米) 宿泊料 二回より七回まで 食事料 八十錢より三回まで

市内名勝地

遊覽順序 驛→商品陳列所→元町→達城公園→西門市場→市場町本町三丁目→東門市場→南城町→驛 所要時間 歩歩 四時間 自動車 一時間半 人力車 二時間半 費用 自動車(一時間) 二回五十錢 人力車 一圓五十錢

達城公園 府内西方に在る盃状の丘阜を利用した公園で新羅時代に於ける達弗城の遺跡である。國內には天照皇大神を奉祀せる大邱神社・望京樓・觀風樓等が有つて市内を一時に收むる眺望絕佳の地である。

賴慶館 府内上町にあつて大正十四年大正天皇即位記念として慶尙北道居住朝鮮人の寄附設立に係るものである。

刀水園 國内清泉が湧き築山の彼方には詠歸亭と呼ぶ物寂びた建物等があつて夏は釣魚、秋は觀月のため杖を曳く人が多い。

郊外名勝地

海印寺及其の溪谷 慶南の名峰伽倻山の南麓海東第一道場海印寺を中心とする淨域は、山嶽美・溪谷美・森林美・伽藍美の極致を以つて真に朝鮮八勝に入選し朝鮮が持つ特有の寺院美と溪谷美の代表的のものとなつた。

大邱より七五・六秆、坦々延の如き直線路を走ること約二時間、舊源里で車を捨て此處から山門迄凡そ四秆の参道は伽倻川の溪流に沿ひ、山また山を巡つて行く寺の境域は伽倻山連峰に圍繞せらるゝ山水秀麗の地で殿閣堂塔また輪奥の美を極めてゐる。その創建は新羅哀莊王の二年(千百餘年前)僧顯應により開基せられ、其の後重建さるゝこゝ三度現在の堂宇は僅かに大寂光殿の外十五、六に過ぎないが山内に極樂殿・藥水庵等十餘の屬庵を置き現在法燈を守る僧徒の數三百餘に上り實に南鮮三大寺の一と/orてゐる。名高い大藏經の判木は寂光殿の後に建てゝある大經閣に收められ其數八萬一千二百五十八枚に及び高麗高宗王の時に版刻されたものと傳へられてゐる。

交通 大邱驛・舊源里間 約七五秆(三時間) 定期乗合自動車 大邱・高靈間 一日數回往復 高靈・舊源里間 一日二回往復

賃金 乗合(一人片道) 二回二六錢 貸切(六人乘片道) 一回四錢 貸切(日歸往復) 二回四錢

旅館 舟海印寺門前には内鮮兩様式の客室を有する紅湯旅館がある。收容人員百名。

鎮

海

明治三十五年韓國政府が馬山を開港してから、露國は鎮海の天然要塞たるに着目し此處に軍港設備を施し露國東洋艦隊の根據地として居つたが日本海戰の大捷以來一躍世間に知られ爾來海軍の要港として今日に及んでゐる。市街は三方麁々長蛇の如き諸峰を以て圍繞せられ、前方は鎮海灣の襟碧を控へた天然の景勝要塞の地で征矢川を中心とし、北より東南に向つて展開したる旭日型の區劃井然たる都市をなしてゐる。

戸 口 教 一、一八三 二、六二〇 三、八〇三 人 口 四、五四七 一三、三〇一 一七、八四八

官公衛其他 鎮海要港部・憲兵分隊・邑事務所・鎮海防備隊・鎮海灣要塞司令部・高等女學校・朝鮮總督府水產試驗場・遞信局海員養成所

交 通 定期航路 自行岩灣(鎮海港) 釜山航行(馬山) 木浦航行(馬山) 駛營行毎日三回

定期自動車路及料金 駛營行毎日十錢 駛營行毎日十五錢 二回出航(二等一圓〇五錢) 三等七十錢

旅 館 松芳・橘・豐陽館・旭・松葉・鎮海・春の日(料理店兼業) 宿泊料 一泊 二、〇〇から六、〇〇まで

遊覽順序 驛→鎮海神社→日本海々樂記念塔→清之浦→千代ヶ瀬→橋の馬場→要港部・防備隊・德丸觀音→羽衣の松→驛

所要時間 徒歩 約四時間 自動車 約二時間 人力車 約二時間半 費用 自動車 五圓 人力車 一圓五十錢

自齋藤洞 馬山每日午前七時から午後十時迄九往復 片道二十五錢

旅館 料理 駐營行毎日四十錢 特等 一圓五十錢 並等 一圓八十錢 片道 八十錢

旅館 駐營行毎日四十錢 特等 一圓五十錢 並等 一圓八十錢 片道 八十錢

根の旅場 古樹の中央に櫻樹林餘や約十秆の間に疎らに佇むたまつて根化櫻の後は恰う根の頂の上に木のトントルを現出し株内里者の根の名所となつて

る。

鎮海神社 眺望絶佳の地である。千代ヶ濱 齊藤瀬頭の千代ヶ濱は遠浅で海水の清澄なる南鮮屈指の海水浴場として之が設備は遺憾なく完備せられ、附近の風景も捨て難いものがあるので夏期は遊賓客を以て賑つて居る。
日本海今戰記念塔 高さ三六米餘、徑二七米餘、建坪百坪、鐵筋コンクリートにて當時の旗艦「三笠」の司令塔を型さり兜山に建立されたもので自動車に依り自由に塔下に達する事が出来る。

馬山

馬山港は鎮海灣から深入した一灣の西岸で舞鶴山下の傾斜面に據て新舊の市街を作り、空氣の清淨、氣候の溫和並に風光の明麗を以て朝鮮中第一の健康地として號へられてゐる。明治四十四年以來要塞地帶として開港開鐵後馬山貿易は頗る衰退し内地との取引は殆んじない。然し近海漁業のみは依然盛況を呈し統營を經て此地に集り更に鐵道便により鮮滿の各地に輸送せらるゝもの相當額に上つてゐる。尙此地は水質と氣候の良好なるが爲に釀造業には最も適應し清酒醸油の如きは品質の優良を以て自他共に全鮮第一を誇つてゐる。

交 通 茅山には鐵路四十浬、鐵橋に三十浬、鐵海には僅に八浬毎日發動汽船の便がある。

自動車料金	馬山・統營間	三國	馬山固城間(四九軒)	二圓	馬山市中及舊馬山間乗合	一人	五錢	貨切	一臺	一圓
發動汽船	馬山・統營間	六往復	(所要時間五十分)	貨金	三十錢					
	馬山・統營間	二往復	(所要時間四十分)	貨金	二等 一圓五十錢	三等 一圓				
戸 口	内地人	朝鮮人	其 他	計						
戸 敷	一、二二九	四、七六一	一三	六、〇〇三	人 口	五、一八七	二二、二四二	四一	二七、四七〇	

官公署其他 馬山府廳・昌原郡廳・重砲兵大隊・地方法院・商業學校・高等女學校

馬山公園 馬山驛より半軒餘櫻町の丘上に在る。前に馬山市街と港内の全景を望み園内には櫻樹を植ゑ大神宮を祀つてゐる。

馬山城址 舊馬山驛より東方半軒、前方には馬山灣の青海を一時に收め背後は舞鶴の高峰に據る要害堅固の丘上にある。文祿の役島津軍の築きし處と云ふ。今は唯山頂に大和式古城址石壘の殘存するに過ぎない。

郊外名勝地

晋州城 晋州驛より約一軒の距離にある。南江に臨み北山を負ふ頗る要害の地で文祿・対長の役には加藤・小西・毛利・孚田の諸将が戮を交へた島である。虎塹

頗るよく、一般邑民散策の地となり驛より乗合自動車の便もある。城の南端にある蟲石樓は南鮮の絶勝地として古來遊ぶ者が多い。

智異山 朝鮮では金剛山と共に推賞すべき名山で金剛山の奇峰亂立する山岳美に引きかへ智異山は鬱密たる老樹を以て掩はれた全くの大森林で多種多様な植物が繁茂し植物學上貴重な存在をなし各大學の演習林もあつて全くの深山幽谷をなしてゐる。廣袤實に五都に亘り古來歷史的にも幾多の傳説を残し山中幽勝閑靜の地には法燈幾百年を守る優雅な古刹も點在してゐる。近年山中の老姑壇に外人の避暑するもの多く別荘が簇々と建てられてゐる。

山中の名勝地としては金剛山の毘盧峰より約三百米高き天王峯と般若峰の雄大なる眺望、外人避暑地の老姑壇、亘利の萬嚴寺、大禪寺、雙禪寺等であつて義に朝鮮八景に入選して以來頗る有名となつた。

南原方面から 南原驛・山内間(三六軒二時間)定期乗合自動車 每日一往復 一人片道 一圓四十錢 貨切 (七人乗) 九四

晋州方面から 晋州驛・石南里間(約一八軒一時間)定期乗合自動車 每日一往復 一人片道 二圓五錢

谷城方面から 谷城驛・求禮間(約二八軒一時間)定期乗合自動車 每日三往復 一人片道 一圓六十錢

尚求禮・華嚴寺間(二二軒) 貨切のみに限り所要時間約三〇分 貨金九人乗一圓八十錢

開闢水道 釜山を西に距る七九軒、朝鮮第一の漁港として又螺鈿漆器の名産地として有名な統營邑、此處より光羅線終點羅羅水港に至る一〇〇軒の航路こそは朝鮮

の瀬戸内海と謂へらるゝ開闢水道であり朝鮮八景の一に推された鮮内唯一の海洋觀光路である。

閑山・鮎梁・南海・其他大小幾數千の島々に圍まれた内海の島嶼、かくれ行く真帆片帆の解けさ、或は高く或は低く群れ飛ぶ鳥の哀調にその昔荒武者共の碇綱投げ込める船泊りを想像しつゝになり行く海路ののぞき、晴々と碧に輝く眞夏の候ともなれば統營・三千浦・麗水を足留りとして島巡りや魚釣に涼を追ひ得る事は大なる魅力である。

附近一帯は朝鮮水產總額の三分の一を占むる朝鮮第一の漁場であり、和船七千、鮮船三千、洋船二百を有し、これ等の漁船がたひ・さば・いはし・たら・ぶり・さわら・太刀魚等々五十餘種の魚群を追ふ様の勇壯、總數々千と稱せらるゝ海女の活躍、更に南海島を本據とする女軍のさんざめき、南の海は勇ましくもまた美しい。

交通 ▲ 蓬山から海路 蓬山・統營間 七九軒(三時間半) 三等 一圓五十錢 二等 二圓二十五錢

蓬山・三千浦間 一二九軒(六時間) 三等 二 圆 二等 三 圆

蓬山・麗水間 一七九軒(八時間) 三時 二圓七十錢 二等 四圓五錢

朝鮮汽船急行 大平丸・大安丸(約二百噸)の他に一日數回の往復がある。

釜山の貿易

朝鮮東南端の主要貿易港である釜山は煙波三十浬を隔てゝ豊岐對馬と相對し、朝鮮海峡を越えて百二十浬の彼方下關との間には朝夕二回の關釜連絡船が定期運航し鮮浦鐵道と連絡して歐亞大陸に通ずる大支那たる権要的地位を占め、尙北九州商船會社の博多行定期便も毎日一往復運航し、内地との交通は一層至便となつてゐる。

關釜連絡船の横付けになる桟橋は僅か數十歩の距離で列車と接続し、旅客待合所・出札所・手荷物取扱所・貨幣交換所・電信取扱所・食堂・ピューロー案内所等の連絡設備は遺憾なく整つてゐる。桟橋から土産品店の並んだ上屋を通り抜けると釜山本關と鐵道會館（ホテル）で二階は鐵道事務所となつてゐる。釜山に上陸して第一に印象づけられるのは市街が純然たる内地風であることを除いて、全く朝鮮の情趣を味へぬ程内地化してゐる。釜山府は草梁・釜山鐵の市街を包含し濱の北東より西南にかけて展開してゐる。府の背後には太白山脈の餘勢である天馬・疫網・九德・高遠見の諸峰が屏風の如く圍繞して朔風を防ぐ爲に氣候は溫和で東京地方と殆んど變らない。現在全人口十六萬三千餘人、内地人五萬一千餘人、井然たる街衢には官衙・公署・會社等軒を並べ益々殷賑を極めて居る。

釜山港に於ける通商貿易は遠く四百七十餘年前對馬島守宗氏修交の誼を結び日韓通商を約したに始つてゐる。當時は別段見るべきものなく單に對馬との交易に過ぎなかつたが、明治九年貿易港として開港以來は海陸諸般の施設漸進的に整備の域に進み、今や貿易額も二億四千萬圓を突破する盛況である。輸出品の主なるものは米・鮮鹽干魚・大豆・海苔・陶器等、輸入品としては葉貢・鹽・小麦粉・生果・綿織絲・肥料・機械類・木材等で、產業の發展に伴ひ益々繁盛を呈すべき狀勢にある。尙市内には醸造業を始めとし精米・製鹽・織詰・蒲鉾・水產肥料・造船等の工場が市内に相當發達し、近代的大規模の紡績・硬質陶器製造會社の如きは朝鮮に於ても有数の大工場となつてゐる。

戸 口	朝 鮮 人	内 地 人	外 人	計
四 月 廿四、五〇五	一一〇、二七五	五三、三三八	二〇一	一六三、八一四
六 月 一二、六九九	六三	三七、二六七	一	
八 月 廿四、五〇五	一一〇、二七五	五三、三三八	二〇一	一六三、八一四
官公署其他	慶尚南道廳・釜山府廳・金山稅關・無線電信局・釜山地方法院・水產試驗所・釜山憲兵分隊・支那領事館・物產陳列場・釜山商工會議所・公會堂・高等女學校・中學校・朝鮮銀行支店・朝鮮儲蓄銀行支店・朝鮮貯蓄銀行支店・釜山商業銀行・慶南銀行・釜山日報社・朝鮮時報社・釜山水產株式會社・朝鮮紡織會社・日本硬質陶器會社・大阪商船會社支店・朝鮮汽船會社・朝鮮郵船會社支店・東洋拓殖會社支店・移出牛檢疫所・麻風患者療養所・牛痘血清所			
鐵 路	大阪浦豐線・大阪清涼線・大阪淡州周線・新義州大阪線・朝鮮上海線・釜山鬱陵島線・朝鮮西海岸線・釜山元山線・堆基關門線・釜山博多線・朝鮮長崎大連線・釜山濟州鳥線・釜山麗水木浦線・釜山統督線・釜山方魚津線・釜山浦項線			
自 動 車	タクシー八十錢（龍頭山公園除外）	市内 貨物料金	一時間以内 三四 半日（五時間以内）十五圓 一日（十時間以内）三十圓	
電 車（市内及東萊温泉間）	一四五錢	府内は釜山驛前を境とし二區に分たれて居る、釜山驛前から東萊温泉迄は五區である。		

終